

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成28年2月25日(2016.2.25)

【公表番号】特表2015-509540(P2015-509540A)

【公表日】平成27年3月30日(2015.3.30)

【年通号数】公開・登録公報2015-021

【出願番号】特願2014-561069(P2014-561069)

【国際特許分類】

C 07 D 239/48 (2006.01)

A 61 K 31/506 (2006.01)

A 61 K 9/20 (2006.01)

A 61 K 9/48 (2006.01)

A 61 P 43/00 (2006.01)

A 61 P 35/00 (2006.01)

【F I】

C 07 D 239/48 C S P

A 61 K 31/506

A 61 K 9/20

A 61 K 9/48

A 61 P 43/00 1 1 1

A 61 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月4日(2016.1.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

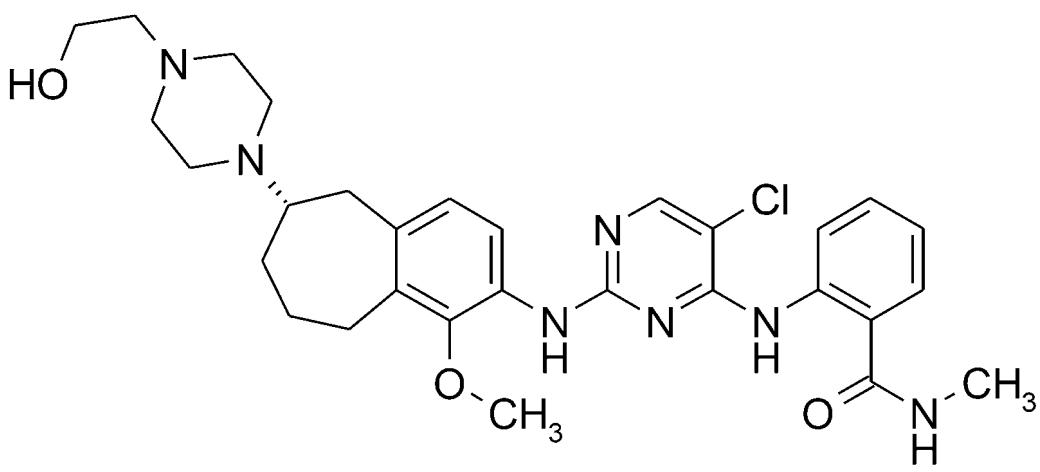
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式(I)

【化1】



の化合物またはその塩。

【請求項 2】

請求項 1 記載の式 I の化合物。

【請求項 3】

前記塩が酸付加塩である請求項 1 記載の式 (I) の化合物の塩。

【請求項 4】

前記塩がトリベンゼンスルホン酸塩である請求項 1 記載の式 (I) の化合物の塩。

【請求項 5】

7.62 ± 0.2°2、13.11 ± 0.2°2、13.76 ± 0.2°2、および 14.05 ± 0.2°2 から選択される 1 若しくはそれ以上のピークを有する X R P D パターンを有する請求項 4 記載の式 (I) の化合物のトリベンゼンスルホン酸塩。

【請求項 6】

6.85 ± 0.2°2、7.62 ± 0.2°2、8.01 ± 0.2°2、13.11 ± 0.2°2、13.76 ± 0.2°2、14.05 ± 0.2°2、および 14.60 ± 0.2°2 から選択される 1 若しくはそれ以上のピークを有する X R P D パターンを有する請求項 4 記載の式 (I) の化合物のトリベンゼンスルホン酸塩。

【請求項 7】

7.62 ± 0.2°2、13.11 ± 0.2°2、13.76 ± 0.2°2、14.05 ± 0.2°2、17.10 ± 0.2°2、17.86 ± 0.2°2、および 18.10 ± 0.2°2 から選択される 1 若しくはそれ以上のピークを有する X R P D パターンを有する請求項 4 記載の式 (I) の化合物のトリベンゼンスルホン酸塩。

【請求項 8】

前記塩が三塩酸塩・二水和物である請求項 1 記載の式 (I) の化合物の塩。

【請求項 9】

5.42 ± 0.2°2、8.86 ± 0.2°2、14.06 ± 0.2°2、17.52 ± 0.2°2、および 18.51 ± 0.2°2 から選択される 1 若しくはそれ以上のピークを有する X R P D パターンを有する請求項 8 記載の式 (I) の化合物の三塩酸塩・二水和物。

【請求項 10】

5.42 ± 0.2°2、5.91 ± 0.2°2、8.86 ± 0.2°2、10.80 ± 0.2°2、11.79 ± 0.2°2、14.06 ± 0.2°2、14.72 ± 0.2°2、17.02 ± 0.2°2、17.52 ± 0.2°2、および 18.51 ± 0.2°2 から選択される 1 若しくはそれ以上のピークを有する X R P D パターンを有する請求項 8 記載の式 (I) の化合物の三塩酸塩・二水和物。

【請求項 11】

請求項 1 ~ 10 のいずれかに記載の化合物または塩と、薬学的に許容され得る賦形剤とを有する、薬学的組成物。

【請求項 12】

請求項 11 記載の薬学的組成物において、前記組成物は、錠剤またはカプセル剤の形態である薬学的組成物。

【請求項 13】

対象における A L K または F A K 媒介性の症状または障害を処置する 薬剤を製造するための、治療的に有効量の請求項 1 ~ 10 のいずれかに記載の化合物または塩の 使用。

【請求項 14】

請求項 13 記載の 使用において、前記 A L K または F A K 媒介性の症状または障害は、未分化大細胞型リンパ腫 (a n a p l a s t i c l a r g e c e l l l y m p h o m a : A L C L)、非小細胞肺ガン (n o n - s m a l l c e l l l u n g c a n c e r : N S C L C)、神経芽細胞腫、神経膠芽細胞腫、前立腺ガン、扁平上皮ガン (s q u a m o u s c e l l c a r c i n o m a : S C C)、および乳ガンから選択される、使用。

【請求項 15】

請求項 1 3 記載の使用において、前記 A L K または F A K 媒介性の症状または障害は、A L K 陽性未分化大細胞型リンパ腫、E M L 4 - A L K 陽性非小細胞肺ガン、神経芽細胞腫、神経膠芽細胞腫、アンドロゲン非依存性前立腺ガン、乳ガン、および頭頸部扁平上皮ガン (head and neck squamous cell carcinoma : H N S C C s) から選択される、使用。

【請求項 1 6】

請求項 1 3 記載の使用において、前記 A L K または F A K 媒介性の症状または障害は、A L K 陽性未分化大細胞型リンパ腫、E M L 4 - A L K 陽性非小細胞肺ガン、神経芽細胞腫、アンドロゲン非依存性前立腺ガン、乳ガン、および頭頸部扁平上皮ガンから選択される、使用。

【請求項 1 7】

請求項 1 3 記載の使用において、前記 A L K または F A K 媒介性の症状または障害は、A L K 陽性未分化大細胞型リンパ腫、E M L 4 - A L K 陽性非小細胞肺ガン、神経芽細胞腫、および神経膠芽細胞腫から選択される、使用。

【請求項 1 8】

請求項 1 3 記載の使用において、前記 A L K または F A K 媒介性の症状または障害は、A L K 陽性未分化大細胞型リンパ腫、E M L 4 - A L K 陽性非小細胞肺ガン、および神経芽細胞腫から選択される、使用。

【請求項 1 9】

請求項 1 3 記載の使用において、前記 A L K または F A K 媒介性の症状または障害は、A L K 陽性未分化大細胞型リンパ腫および E M L 4 - A L K 陽性非小細胞肺ガンから選択される、使用。

【請求項 2 0】

請求項 1 3 記載の使用において、前記 A L K または F A K 媒介性の症状または障害は、アンドロゲン非依存性前立腺ガン、乳ガン、および頭頸部扁平上皮ガンから選択される、使用。

【請求項 2 1】

請求項 1 3 記載の使用において、前記 A L K または F A K 媒介性の症状または障害は、A L K 媒介性の症状または障害である、使用。

【請求項 2 2】

請求項 1 3 記載の使用において、前記 A L K または F A K 媒介性の症状または障害は、F A K 媒介性の症状または障害である、使用。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

ガンを処置するための、さらに安全で効果的な A L K および / または F A K の阻害剤についての必要性が存在する。

この出願の発明に関連する先行技術文献情報としては、以下のものがある（国際出願日以降国際段階で引用された文献及び他国に国内移行した際に引用された文献を含む）。

（先行技術文献）

（特許文献）

（特許文献 1） 国際公開第 2 0 0 8 / 0 5 1 5 4 7 号

（特許文献 2） 国際公開第 2 0 0 5 / 0 8 0 3 9 3 号